

【二俣川ゲートステーション】が 2019年度グッドデザイン賞を受賞！

株式会社相鉄アーバンクリエイツ

～人が暮らし、集うコミュニティハブとしての駅～



駅の広場空間と商業施設ジョイナステラス二俣川

【概要】 複合施設群を内包する駅と駅における諸活動

交通の結節点としての駅空間を、人が暮らし、集うコミュニティハブとしての駅としてデザインする。駅の自由通路+広場空間を中心に、商業、オフィス、集合住宅のほか、コワーキングスペース、医療モール、認可保育園等、複合施設群を配しネットワーク化。あわせて複合施設群の利用者・居住者のコミュニティ形成のための諸活動を展開。

【審査委員の評価】

鉄道駅は、20世紀には都市における人の集中と離散を決定づける最大要因であり、駅前商店街といった集積を生んできた。それが21世紀に入ると加速され、TODと呼ばれる大規模開発を誘引するようになった。より小さなスケールでは「エキナカ」と呼ばれる開発があり、駅は多くの人々の通過地点であることを利用し、人々でにぎわっているが「エキナカ」のにぎわいでは、駅外にその恩恵が流れ出ず、地域の発展には結び付きづらいという問題がある。この施設は、「エキソト」とでも命名したくなるような、駅を核とした中小規模のまちづくりの可能性が見え、手掛かりが感じられる点が評価を集めた。

※TOD…公共交通機関に基盤を置き、自動車に依存しない社会を目指した都市開発

応募者 (株)相鉄アーバンクリエイツ、(株)相鉄ビルマネジメント、相鉄不動産(株)、
相鉄ホールディングス(株)、相模鉄道(株)
ディレクター (株)相鉄アーバンクリエイツ
デザイン (株)オンデザインパートナーズ、(株)船場、(株)丹青社